

白山市立蕪城小学校

校長だより

No. 7

令和8年度 6月12日



学校教育目標

自ら学び、心豊かで、たくましい児童の育成
～ みんなが元気 みんなで前進 ～

めざす児童像

「自ら関わり学ぶ子」

「やさしく思いやりのある子」

「力いっぱい活動する子」

白山ジオ学習「五感のアンテナ！」

6月10日（水）、11日（木）に6年生が白山ろく少年自然の家において白山ジオ合宿を実施しました。児童は、集団行動を意識しながら豊かな自然の中で活動を満喫していました。

学校での出発式では、校長から『4つの「あ」』を大切にしようと話しました。4つの「あ」とは、挨拶、ありがとう、安全、そして「あっ」と発見です。3つ目までは、児童はすぐに予想がついたようです。日頃から意識して、全校のお手本となるよう行動しているからだと思いました。最後の4つ目は、**「五感のアンテナ**

を伸ばして、自然から多くを発見しよう」を表しています。爽やかな緑の中から流れ出る清流の美しさ、鳥の鳴き声や川のせせらぎの音、風にあたる感覚の心地よさ、寒いときには大きな石に抱きつき暖を取ること、生き延びるために体をヌルヌルにして泳いでいるイワナをつかまえ、さばく感触等を感じてほしいという願いからです。また、非日常の活動の中で、友達の良さやみんなで過ごす楽しさを再発見してほしいという思いもあります。今回の体験において、**自然から多くを感じとることができる「感性」が刺激されるよう期待しています。**



タグラグビー

4年生は、体育の授業でタグラグビーに取り組んでいます。タグラグビーとは、タックル等の身体接触を避け、腰につけたタグを取られないように相手陣地へのトライを目指すものです。**市・県ラグビー協会の指導者の皆様のご協力のもと、児童は「ラグビー型」ならではの特性に触れながら、意欲的に活動しています。**先日は、市から教育長をはじめ複数の方々が見察に訪れ、児童の生き生きとした様子をご覧いただきました。

タグラグビーの魅力の一つは、相手をおかわす楽しさにあります。ボールを持って走り、相手の動きを見ながら巧みにかわしていく場面では、思わず歓声が上がります。一方で、ラグビー特有の難しさもあります。それは「ボールを前に投げることができない」というルールです。そのため、攻撃に参加するには常にボールの後ろにいななければなりません。ボールを持っていない味方は、ボール保持者の後方についていく意識が求められます。

児童は、こうしたルールの中で**「どのようにパスをつなぐか」「どうすれば相手を抜けるか」**を考えながら、コートを走り回っています。パスをもらうとき、タグを取るときに**「パス」「タグ」と大きな声を出し、仲間と気持ちを通わせてプレーする姿も見られます。**

私自身も高校から30年間ラグビーをしてきたこともあり、学校現場においてこれまで何度か「ラグビー型」の授業に挑戦してきましたが、なかなかうまくいきませんでした。今回の取組は、4年生の担任同様私にとってもたいへん大きな学びの機会となりました。

本校ではこの他にも、JFA（日本サッカー協会）の指導による教職員対象のサッカー教室も受講しており、**専門的な指導を学ぶことを通して、体育の時間の充実を図っています。**今後もこうした機会を大切に、児童がスポーツの特性に触れることを通して、体を動かすことの楽しさを味わい、力いっぱい運動することができるよう努力して参ります。